

令和3年度「品川区学力定着度調査」の結果から 明らかになった課題と学力向上に向けた取組

「品川区学力定着度調査」の趣旨

- (1)学習指導要領に示された教科の目標や内容の実現状況を把握し、教育課程や指導方法等に関わる区の課題を明確にすることで、その充実・改善を図るとともに、区の教育施策に生かす。
- (2)各学校は、教育課程や指導方法に関わる自校の課題・解決策を明確にするとともに、調査結果を経年で把握することで、児童・生徒一人一人の学力の向上を図る。
- (3)区民に対し、区立学校における児童・生徒の学力等の状況について、広く理解を求める。

1 調査日 令和3年4月20日（火）

2 調査対象 品川区立学校 第2～9学年の全児童・生徒

3 調査内容

教科に関する調査

→ 調査の趣旨に基づき、学習指導要領に定める内容について、基礎・基本および活用の力を測る問題で構成

<第2・3学年> 国語、算数

<第4～5学年> 国語、社会、算数、理科

<第6学年> 国語、社会、算数、理科、英語

<第7～9学年> 国語、社会、数学、理科、英語

品川区立 宮前小学校

国語

(1) 定着状況についての概要

全学年において教科の総合としての目標値および全国平均正答率は上回っている。領域別にみると6年生は特に、漢字と文章を書くことについて定着が見られる結果となっている。3年生は、漢字や言葉などの知識については身に付いているが、それらを活用する力に課題が見られる。4年生は、書くことに関して、段落構成など学習したことが十分に活用できていない結果が表れている。5年生では、自分の考えや根拠を明確にして文章を書くことに課題が見られた。全体的な傾向として、「文章の読み取り」と「文章を書く」ことの問題で、苦手な傾向が表れている。

(2) 具体的な課題

以下、各学年における正答率の低い内容である。

学年	課題となった内容
2	文章を書く 説明文を読み取る 物語文を読み取る
3	文章を書く 説明文を読み取る 物語文を読み取る 話を聞き取る
4	文章を書く 説明文の内容を読み取る ローマ字を読む
5	文章を書く 話の中心を捉えて自分の考えをもつ
6	説明文の内容を読み取る 話の内容を聞き取る 言葉の学習

(3) 課題の原因として考えられること

全体として、文章を読み取ること、そこから書き表すことの問題が区の平均正答率と差があり、定着していないことが伺える。「読み取り」を苦手としている児童が多く、「物語文の読み取り」や、「説明文の内容の読み取り」などで顕著に表れている。原因として、このような形式の問題を解く機会が少ないのではないかと、ということが考えられる。授業でも取り組んでいるが、こういった経験を今後さらに積んでいく必要がある。

また、「文章を書く」ことを苦手としている学年が多く、文章を書く問題の無回答率が高い。日常的に自分の気持ちや考えをもち、表現することに苦手感をもつ児童の姿が見られている。選択肢の中から選んだり、話型を基に書いたりすることができるように取り組んでいるが、語彙の少なさや文章構成力の弱さ、様々な話型のパターンを習得し活用できていないことが原因と考えられる。

(4) 課題の解決のための方策

○読書指導や、文章読解での授業の充実により、児童の読解力の向上を図る。

- ・図書館を利用して学習する時間を、週1時間確保する。
- ・物語文、説明文の読み取りでは、短時間で集中的に練習を行う。長い文章ではなく短い文章、さらに前学年の内容から、朝学習の時間などを用いて取り組ませていく。

○辞書の活用、既習事項の計画的復習により、言葉の力の向上を図る。

- ・各学級に辞書を備え、言葉の意味が分からない時には、教科を問わず、いつでも活用できる教室環境を整えていく。
- ・言語事項の指導の際や文章読解の際に、既習事項を確認する時間を設け、計画的に復習していく。

○相手や目的に応じた文章を書く力や、段落構成を考えた文章を書く力の向上を図る。

- ・作文の学習では作文メモを活用し、文章の構成を考える指導を充実させる。
- ・低学年から視写を計画的に行い、正しく文章構成を身に付けさせる。
- ・協働学習ツールを用いて互いに文を読み合い推敲し合うことで、読み手を意識した文章構成力を身に付けさせる。

○学習環境の整備

- ・基本的な文例を掲示し、いつでも確認できるようにすることで、自信をもって表現できるように環境を整える。

(5) 次年度の目標 特に顕著に課題が出たものに関しては、それらの課題を解決する目標について全学年、「読むこと」と「書くこと」の領域で、目標値を上回る。

社会

(1) 定着状況についての概要

校内平均正答率は、4年生は、目標値と全国平均正答率より上回っている。5・6年生は、全国平均正答率のみが上回っている。

授業の展開の工夫、宿題やタブレット学習等を活用することで、基礎的な内容を意識的に取り組み、社会的事象についての知識・技能の定着を図っているが、全体的に思考・判断・表現に課題があり、特に既習事項と複数の資料から正しく情報を読み取り、関連付けさせる必要がある。

(2) 具体的な課題

以下、各学年における正答率の低い内容である。

学年	課題となった内容
4	市の様子の移り変わり（資料の読み取り、情報の関連付け）
5	生活環境を支える活動（資料の読み取り）
6	国土の自然などの様子（資料の読み取り、記述）

(3) 課題の原因として考えられること

コロナ禍の状況において、各学年、体験学習が行えず、基礎的な知識は身に付いていても、実生活との関連ができていない。各学年において、例えば、グラフの読み方の指導や資料に触れる機会を多くし、必ず視点を与えてから読み取らせることの定着が図れていない。

これらのことは三観点の中の思考・判断・表現における、基礎的な知識や資料などから得た情報を応用・活用して社会的事象が起こった原因について考え、表現する力が高まらないことにつながっている。

(4) 課題の解決のための方策

○主体的に学習に取り組む態度を高めるために

- ・社会科の興味・関心を高めるためには、身近な教材を授業の中に取り入れる。
- ・具体的な資料を用いる授業や、体験学習、ゲストティーチャーを招いて行う授業を取り入れる。

○資料の読み取りの定着のために

- ・授業の導入等で、フラッシュカードを用いて用語等の基本的な知識を確認する。
- ・資料に触れる機会を多くし、必ず視点を与えてから、資料を読み取らせる。

○思考力、判断力、表現力等を育成するために

- ・授業の最後の5分は、キーワード作文を作らせるなど、学習のまとめを自分の力で書く活動を取り入れる。
- ・モデルを教師が示してから、新聞やポスター等にまとめさせる。
- ・プレゼンテーションやクイズなどを作成して、資料をまとめていき、表現する機会を設ける。

○基礎的な学習内容を一層定着させるために

- ・どの学年も効率的に習熟問題に触れさせ、基礎的な内容の定着を図る。

(5) 次年度の目標 特に顕著に課題が出たものに関しては、それらの課題を解決する目標について全学年において、資料を読み取って解く問題の正答率が目標値を上回る。

算数

(1) 定着状況についての概要

どの学年も三観点および各領域の目標値や全国平均正答率をほとんど上回っていた。基礎問題の正答率が高い学年は全体の正答率も高い傾向があることから、基礎計算力を上げることが全体の正答率を上げることにつながると考えられる。よって、引き続き少人数指導等の充実を図り、きめ細やかな指導を行っていくことが必要である。各学年における課題がまちまちであったため、単元に入る前に児童の実態を把握し、朝学習の時間にも集中的に習熟を図っていく。

(2) 具体的な課題

以下、各学年における正答率の低い内容である。

学年	課題となった内容
2	立体
3	問題の意味の理解 文章問題にあった図を選択する 考え方の説明
4	基礎計算 理由や計算の仕方の説明
5	面積 図形の作図
6	計算の求め方や理由の説明

(3) 課題の原因として考えられること

記述問題や説明問題において、目標値に達していない学年が多い。基本的な計算問題においては理解できている児童が多いことから、計算の方法や考え方をもって自力解決する習慣や自分の考えを言語化して他者に説明できていないことが原因であると考えられる。

(4) 課題の解決のための方策

○基礎計算力を上げる。

- ・教員が学習内容の系統性を把握し、朝学習の時間や家庭学習で学年を遡っての復習時間を取り入れる。その中でつまづいている部分を見付け、個に応じた学習支援を行う。
- ・eライブラリを活用し、児童が率先して繰り返し問題に取り組める環境を整える。
- ・校内研究において自分の考えを他者に表現する力を高める手だてについて研究を深めていく。

○考え等を自分の言葉で表現する機会を多く設定する。

- ・自分の考えをもち、他者に自分の言葉で表現する機会を多く設定する。
- ・自分の考えをもつために問題場面をイメージしやすい提示の仕方や既習事項の振り返りを行う。
- ・他者に自分の考えを表現するために話型を示して活動を支援する。

○習熟度別学習や少人数授業を実施し、児童の実態に応じた指導の充実を図る。

- ・今年度も2～6年生の算数の授業において、習熟度別授業や少人数授業を行っていく。専科教員や管理職も支援に入ることによって、児童の実態に合った、より細やかな指導ができるようにする。

(5) 次年度の目標

全学年、全領域で目標値を上回る。

特に数と計算領域の答えの求め方や理由を説明する問題の正答率が目標値を上回る。

理科

(1) 定着状況についての概要

領域別にみると6年生のみが教科全体で目標値や全国および区の平均正答率を上回った。その一方で4・5年生に課題が見られる。昨年度の学力調査の結果を踏まえ、生物の飼育・栽培を行ったうえでの継続的な観察活動を行ってきた。また、都会では見られない動植物もタブレットを活用して間接的に触れられるよう活動を取り入れてきた。そのために、昨年度と比較して生命領域における動植物の飼育・栽培に関連する事項、天気図役割観測に関する事項の定着率が向上してきている。しかし、飼育・観察をしたことをグラフ化した時の読み取りや記録カードの書き方、時系列での捉え方に課題が残った。

また、物質・エネルギー領域に関しては、電流に関する事項のように目に見えないことの実験を行うときの基礎となる事項は定着しているが、実験することが目的となり結果からの考察したことの定着に課題が残った。

(2) 具体的な課題

以下、各学年における正答率の低い内容である。

学年	課題となった内容
4	身近な自然の観察、電気の通り道、音、物の重さ
5	電流のはたらき、雨水のゆくえと地面の様子
6	植物の発芽と成長、電流のはたらき

(3) 課題の原因として考えられること

動植物や天体を観察して、記録カードを記入するときに観察する目的や観察する時の条件を書き残す必要性を意識させていない。植物や天体の観察をする時に時系列で観察したことをグラフ化したり、連続化したりしても子どもたちが資料として活用できることを認識するまでに至っていない。電流のように目に見えないことを扱う場合、条件の変化と視覚化された変化とを整理して思考する時間が十分に取れていない。実験をして得た知識が日常生活に生かされていることが結び付けづらい。

(4) 課題の解決のための方策

- ・子どもたちが記録カードを書くときに書き込む事柄について、なぜ書くのかという意義をきちんと指導し、記録カードも単体として扱うだけではなく、連続して視覚化できるようにすることで資料として活用する活動を行っていく。また、成長記録などをグラフ化する活動を取り入れ、グラフを読み取って成長の仕方を考えられる活動を取り入れていく。
- ・何が前と変わったのか、変化に伴って働きはどのように変わるのかを、予想を立てながら調べさせるようにする。また、見えない力を具体的なものや図、電流、直列つなぎなどの科学用語を使って、説明したり、記述したりさせていく。
- ・実験や観察を行った際に、分かったことや疑問を文字だけでなく、図も使って表現する指導を行っていく。また、「効率よく部屋を暖めるにはどうしたら良いだろうか。」など日常生活と結び付けながら考えるよう指導する。

(5) 次年度の目標 特に顕著に課題が出たものに関しては、それらの課題を解決する目標について

全学年において以下の領域の指導を工夫し、校内平均正答率の目標を設定する。

- ・エネルギー領域…目標値を上回る。
- ・地球領域…目標値を上回る。

英語

(1) 定着状況についての概要

基礎的内容、活用的内容はどちらも目標値および全国平均正答率を上回っているが、区平均正答率と比べるとまだ改善の余地がある。単語の意味理解（聞く）では、色、動作、身の回りのものにおいては高得点であるが、曜日や施設、文房具など、特定の範囲の単語への理解が低かった。全体的にリスニングでの正答率が低い。正答率の低い児童をみると、基本的な単語の理解（聞く）やアルファベットの書き（聞く）で誤答が目立つ。

(2) 具体的な課題

以下、各学年における正答率の低い内容である。

学年	課題となった内容
6	リスニング

(3) 課題の原因として考えられること

- ・特定分野の単語（曜日、施設、文房具）が習得できていない。
- ・4線を使っての英単語の書き方など、基礎的な知識が十分には身に付いていない。
- ・場面選択での無回答や採点不可もあり、英語の学力調査に不慣れな傾向がある。

(4) 課題の解決のための方策

- 基本的学習内容習得のための支援
 - ・アルファベットを習得させるために小テストや学期末テストを利用して、確実に定着を図る。
 - ・4線での書き方での誤答も多かったため、4本線上にアルファベットを書くワークシート形式を採用する。
- 語彙力の向上
 - ・単語の理解（聞く）はどの分野も繰り返し英単語になれさせるように復習時間を設ける。
 - ・語彙力は積み上げが重要であるため、低学年、3, 4年生での語彙力習熟の機会を増やす。
- リスニング力の強化
 - ・リスニングでの正答率が低かったため、学習の中でJTEと英語で会話する機会を増やす。
 - ・日常会話を聞いて、和訳の補足説明後、ゲームをするなど実践を通して音に慣れる等仕組みを工夫する。
- 英語の学力調査形式の問題に慣れさせるために
 - ・リスニングで出題されている場面の状況を選んだり、会話文を聞いて選択したりする等のテストに取り組む。
 - ・学期末に他教科同様、既習事項の定着度を図るペーパーテストを行う。

(5) 次年度の目標 特に顕著に課題が出たものに関しては、それらの課題を解決する目標について

- ・次年度も引き続き、全国平均や目標値を上回る。
- ・特にリスニング問題について、全員が正答率において目標値を上回る。